



平成20年 2月 8日

会 社 名 株式会社 栗本鐵工所
 コード番号 5602 (東証・大証第一部)
 代 表 者 代表取締役 社長 福井 秀明
 問 合 せ 先 執行役員 財務部長 小島 眞也
 TEL (06)6538-7724

業績予想ならびに配当予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向を踏まえ、平成19年11月16日に公表しました平成20年 3月期 (平成19年 4月 1日～平成20年 3月31日) の業績予想ならびに平成20年 3月期配当予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

- 記 -

1. 連結業績予想数値の修正

平成20年3月期通期連結業績予想数値の修正 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成19年11月16日発表)	168,000	2,200	1,200	800	6.27
今回修正予想 (B)	163,000	△ 1,900	△ 3,300	△ 11,300	△ 88.55
増減額 (B-A)	△ 5,000	△ 4,100	△ 4,500	△ 12,100	
増減率 (%)	△ 3.0	-	-	-	
前期実績 (平成19年3月期)	151,371	1,070	33	557	4.37

2. 個別業績予想数値の修正

平成20年3月期通期個別業績予想数値の修正 (平成19年4月1日～平成20年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A) (平成19年11月16日発表)	76,000	400	200	500	3.92
今回修正予想 (B)	70,500	△ 3,000	△ 3,000	△ 9,800	△ 76.79
増減額 (B-A)	△ 5,500	△ 3,400	△ 3,200	△ 10,300	
増減率 (%)	△ 7.2	-	-	-	
前期実績 (平成19年3月期)	78,592	464	1,138	△ 10,353	△ 81.12

3. 修正の理由

(1) 単体業績予想修正の理由

売上高につきましては、活況を呈している自動車業界を背景に鍛圧機を中心とした機械部門が引き続き堅調に推移しているなかで、建材部門を中心に前回発表を下回る見込みであります。尚、減収の主な要因は以下のとおりであります。

① 建材部門における円筒型枠試験数値改ざん

昨年末に発生しました円筒型枠試験数値改ざんの影響で建材部門の円筒型枠の出荷停止、環境部門他においては顧客からの契約解除などにより売上高が約11億円減少する見込みであります。

② 建築基準法の改正

同法の改正により建築物の着工が遅れたことから、受注時期が繰り延べられ、建材部門の空調・建築製品他で売上高が約16億円減少する見込みであります。

③ 工期延期

鉄構、環境部門におきまして、契約工期が延期された物件が発生し、これによる売上繰延により売上高が約16億円減少する見込みであります。

④ その他

鉄管部門におきまして、下期に入り一時的な需要量減少の影響などにより売上高が約10億円減少する見込みであります。

営業利益および経常利益につきましては円筒型枠試験数値改ざんによるもので約4億円、これ以外の前記要因による売上高減少の影響ならびにスクラップ、銑鉄、鋼材などの原材料価格の高騰などで約17億円、また、環境部門におきましてもリサイクルプラントの補修、追加工事の発生と来期に発生が見込まれるコスト増加要因の当期引当処理で約10億円などにより前回発表予想を下回る見通しであります。

当期純利益にかかわる特殊要因といたしまして、以下の主たる要因にて特別損失に計上、また今回の損失の計上見込みにより繰延税金資産の全額取崩しとして約5.5億円を予定いたしております、これらにより前回発表予想を大幅に下回る見通しであります。

(特別損失の主な要因)

- ・ 橋梁、水門談合事件の違約金として約7億円
- ・ 平成20年度から実施を予定いたしております事業再編をひかえて棚卸資産、固定資産の処分として約8億円。

(2) 連結業績予想修正の理由

単体業績予想の修正に加えて橋梁部門の営業利益が約6億円下回る見込みであります。これは、鋼材・塗料・輸送費などの高騰、架設現場の条件変更に伴う工法の変更や追加作業の発生ならびに工期延期などのコスト増加要因に対して当期で引当処理をおこなう見込みであることによるものであります。また、建築基準法の改正の影響などにより建設部門、商事部門は減収減益となる見込みであり、連結業績につきましても前回発表予想を下回る見通しであります。

4. 平成20年3月期配当予想の修正

(1) 期末配当予想の修正

基準日	1株当たり配当金(円)		
	中間期末	期末	年間
前回発表予想(平成19年11月16日発表)	-	2.00	4.00
今回修正予想	/		2.00
当期実績	2.00	-	
前期(平成19年3月期)実績	2.00	2.00	4.00

(2) 期末配当予想の修正の理由

当社は株主の皆様へ継続的かつ安定した配当を行うことを基本方針といたしております。しかし上記のとおり当事業年度における通期の業績予想は厳しい状況にあることから、期末配当につきましては誠に遺憾ながら見送らせていただく予定でございます。

5. 今後について

当社は平成17、18年度に発生した橋梁、水門の談合事件に加えて昨年末に建材部門において発生した円筒型枠に関する不祥事を受けて、現在の個別事業単位では社会的信用・信頼の回復ならびに業績の改善は容易ではないと判断し、既存の枠組みにおける事業運営を転換すべく関係会社も含めた新たな事業再編に着手する運びとなりました。

事業環境が厳しさを増すなかで、従来の事業単位、個社単位での拡大指向ではなく、事業をまたいだビジネスモデルごとに集約した組織に再編することにより、不採算事業からの撤退、成長事業へ経営資源を集中し、ガバナンスの強化と部門横断的な人事を通じてバランスのとれた持続的な成長をめざしてまいります。

平成19年度は円筒型枠試験数値改ざん、建築基準法の改正の影響や、事業再編をひかえての資産処分等により大幅な損失を計上する見込みではありますが、現在進めております事業再編を実施することにより、平成20年度は業績を回復させる所存であります。

尚、当社グループにおける事業再編の概要につきましては3月上旬に発表させていただきます予定であります。

以上

(注) 上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づいて作成したものであり、最終の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。